

かながわユースフォーラム2024を終えて

国際日本学部 日本文化学科3年 中山 彩香
 人間科学部 人間科学科3年 三田村 捺希

2024年7月13日土曜日に「かながわユースフォーラム2024」が開催されました。今年で五年目を迎えるユースフォーラム。開催に至るまでの経緯や当日の様子など、たっぷりご紹介します。

「かながわユースフォーラムとは」

「かながわユースフォーラム」は、「地域活動へのハードルを下げたい」との想いから、社会教育課程履修者8人が2020年に立ち上げた「若者企画型交流事業」です。私たちはこの事業の「参画者」として、先輩方の後を引き継ぎ計画立案に関わってきました。そして、「参加者」である潜在的ボランティア（ボランティアをしたくてもできない）層の学生たちをターゲットにして



ユースフォーラムを開催し、地域にある様々な課題について関心を持つってもらうこと、解決のために活動を行っている学生たちの成果発表や、活動への自発的参加を促すことを目的としています。

「かながわユースフォーラム2024」

「かながわユースフォーラム2024」のテーマは「育てよう未来への種」でした。このテーマには、これまでのかながわユースフォーラムで、先輩方が作ってきたくださった繋がりをより深めていくことや、若者の継続的な社会参加を推し進めるという決意が込められています。

「参画者」として、地域デザイン演習Ⅳ（社会教育



課程)を履修している学生を中心に4年生や院生の学生サポーターを加え、今年度は36名が実行委員として運営に携わりました。また、当日は「子育て支援」(社教)「多文化交流」(社教)「防災×地域」(オレオレ詐欺)「ジェンダー」(海外ボランティア)「中学生むけ学生ボランティア」(教職)の7つの分科会(スタッフ58名)と、捜真女学校高等学校や横浜市立東高等学校などの高校生を加え、計14団体のパネル展示が行われ、参加者は来客の方(32名)を含め268名とな



り、多くの方が会場に足を運んでくださいました。

開催当日までの間、私たちは授業以外にもグループごとに集まり、何度も話し合いを重ねました。振り返ってみると、実行委員会の全員が少しでも良い「かながわユースフォーラム2024」にするために、寝る間も惜しんで必死になった半年間でした。

高校生活という青春時代をコロナ禍によって奪われた私たちは、友達の仕事の都合などの外的要因から、日本に「連れてこられてしまっている」現状に着目し、子どもたちが抱える困難や課題に寄り添いたい、少しでも日本に来てよかったと思ってもらえるような取り組みをしたいと考えました。子どもたちが大学生と一緒に遊ぶ中で、学校と家とも違う居場所作り、斜めの関係作りができたらと思っています。

国境を越えて輪を広げよう！

— 多文化交流会 —

最後に、私たちがこれまで行ってきた活動についてご紹介します。

私たちは、外国にルーツのある子どもたちの多くが、自分の意思とは関係なく両親の仕事の都合などの外的要因から、日本に「連れてこられてしまっている」現状に着目し、子どもたちが抱える困難や課題に寄り添いたい、少しでも日本に来てよかったと思ってもらえるような取り組みをしたいと考えました。子どもたちが大学生と一緒に遊ぶ中で、学校と家とも違う居場所作り、斜めの関係作りができたらと思っています。

そこで、今年の3月から「神奈川県多文化共生ラウンジ」や「友ゆうスペース」に足を運び、外国にルーツのある子どもたちとの交流を深めてきました。また、5月と6月に一回ずつ、多文化交流会としてレクリエーションイベントを開催し、そこで感じたこと、考えたことをもとに、「外国にルーツのある子どもたちに何ができるのか」について考える分科会をかながわユースフォーラム2024内で行いました。

参加者からは、「外国にルーツのある子どもたちと関わってみようと思った」という声が聞かれた一方で、「子どもたちに対して大学生にできることはないか、考えるのが難しかった」という声もありました。

まだまだ、大学生にとって手が届きにくい課題という認識があるようですが、新学期からは多文化交流に関心のある学生と共に活動を続けていきたいと思っています。

